# 水が大好きだ

沖縄県　大里中学校　三年　大野　こまち

私は「水が大好きだ」私は毎日歯をみがく、私は毎日おふろに入る、毎日洗濯物をまわす、手を洗う。水は私達が生きる上で常に必要としているものだ。身近に使う水以外にも水力発電、農業、工場での洗浄用水、原料用水など人間が生きていくうえで必要不可欠なもの。そんな水が突然使えなくなったら私達はどうなるのか。

最近、沖縄県の水の貯水率が四十三・三％となり過去十年で最低となった。テレビ、新聞でも大きく報道され、私の中でもピンチな出来事となった。そんな中少しでも水の無駄を出さないようにするために、歯みがき、おふろに入る際は水の流しっぱなしは絶対にしない、洗濯物の一回にまわす量を増やすことを心がけたりと最低限自分ができることをした。数週間後、ようやく沖縄の貯水率は６割程度まで回復した。

数週間でも水がなくなったらどうしようと不安だったのに、これがもし貯水率が０％になって生活で水が使えなくなったらどうやって生きていけばいいのだろうと私は考えた。そんなときにＳＮＳにかかれていた事を読んで私は驚いた。そこにかかれていたのは、「今、安全な水を手に入れられない人は、世界で六億六千三百万人にのぼっている」という記事だった。その記事の下にこのようにかかれた記事があった。「毎日、八百人もの子供が汚れた水で命を落としている」と。子供たちの多くは、池や川など飲用に適さない水源に頼るしかない。しかしその水には、泥や細菌、動物の糞尿などが混じっているという。私が住んでいる日本は、水道から当たり前に安全な水がでるという恵まれた環境にいるおいしい水が飲めて水に困らない生活をしているから水が大好きといえるのだと私は生まれてはじめてそう感じた。私は、感じるだけではダメだと思い、どうすれば誰もが安全な水を飲むことができるかと調べた。一番大きく取り上げられていたのがＳＤＧｓだった。最近ではテレビ、新聞、ＳＮＳでもＳＤＧｓについて取り上げる事が増えてきている。そのＳＤＧｓの六番、安全な水とトイレを世界中にという目標がある。この目標に向って自分たちが取り組める活動はどのようなものがあるか考えてみた。そもそもＳＤＧＳ６で日本は世界的にどのくらいなのだろうか。二千二三年のランキングでは日本二十一位で点数七十九・四だった。一位はフィンランドので八十六・八点。日本も全体的にみると悪くないランクインだがフィンランドは三年連続一位をとっている。日本とフィンランドの差にはどのようなものがあるだろうか。日本では、ＮＧＯ団体、ウォーターエイドや日本航空、サントリーホールディングス株式会社などの企業がＳＤＧｓ６に対して積極的に活動している。その中でも、日本航空では、洗浄や塗装の際に使用される大量の汚染水に注目し汚染水を日本航空が保有する処理施設で処理を行う活動をしているそうだ。この活動により同一の水をリサイクルして長期間使用することが可能となり、大きな節水となっている。

一方フィンランドでは、企業が活動を行うというよりは国民みんなで大きな自然を守りＳＤＧｓ６に取り組んでいる。例えばマイボトルを誰もが当たり前に持ちペットボトル排出量を抑えている。この活動などを国民が当事者意識を持って取り組んでいる。ここまでの話を見る限り日本の方が積極的な活動をしている様に思われるがフィンランドと日本の一番の違いは何なのだろうか。

私は次のように考えた。水は永遠にあるものではないだからこそこれからは、水と人は共存していかなければならない。そのためには、フィンランド国民のマイボトルや節水は普段の生活で当たり前にやる。世界で安全な水を手に入れることがきていない六億六千三百万人が水と共存できる様になるために必要なのはフィンランドの国民の心に常にある

「水への感謝を行動に示すこと」だ。社会の意識がそんな風に変わっていけば水と人が共存できる未来もそう遠くないのかもしれない。
私達は、叫び続けなければいけない誰もが「水が大好きだ」と言える日まで